

安全データシート

作成日：2015年6月8日

改定日：2023年4月3日

1. 化学品及び会社情報

製品名	:	NK フレーク DW-V 樹脂 W
販売元 会社名	:	CRM 株式会社
住所	:	名古屋市名東区社口1丁目913番地
製造元 会社名	:	富士レジン工業株式会社
担当部門	:	技術部
住所	:	兵庫県尼崎市潮江3-1-17
電話番号	:	06-6499-0303
FAX	:	06-6498-4032

2. 危険有害性の要約

[GHS 分類]

物理化学的危険性	:	引火性液体	区分3
健康有害性	:	急性毒性(吸入：蒸気)	区分4
	:	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	:	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2
	:	生殖細胞変異原性	区分2
	:	発がん性	区分1B
	:	生殖毒性	区分1B
	:	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系)
	:	特定用的臓器毒性(反復ばく露)	区分3(気道刺激性)
	:	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(呼吸器系、肝臓、神経系、血液)
	:	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(副腎、腎臓)
環境に対する有害性	:	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	:	水生環境有害性 長期(慢性)	区分3

[GHS ラベル要素]

絵表示又はシンボル



注意喚起語	:	危険
危険有害性情報	:	(H226) 引火性液体および蒸気 (H315) 皮膚刺激 (H319) 強い眼刺激 (H332) 吸入すると有害 (H335) 呼吸器への刺激のおそれ (H341) 遺伝性疾患のおそれの疑い (H350) 発がんのおそれ (H360) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H370) 臓器の障害(中枢神経系) (H372) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器系、肝臓、神経系、血液) (H373) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(副腎、腎臓) (H401) 水生生物に毒性 (H412) 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	:	(P201) 使用前に取扱説明書を入手すること。 (P202) 全ての安全注意事項を読み理解するまで取り扱わないこと。 (P210) 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
安全対策	:	

- (P233) 容器を密閉しておくこと。
- (P240) 容器を接地しアースをとること。
- (P241) 防爆型の電気機器、換気装置及び照明機器を使用すること。
- (P242) 火花を発生させない工具を使用すること。
- (P243) 静電気放電に対する措置を講ずること。
- (P260) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- (P264) 取扱い後は、よく手などを洗うこと。
- (P270) この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- (P271) 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- (P273) 環境への放出を避けること。
- (P280) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 応急措置 : (P302+P352) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
- (P303+P361+P353) 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
- (P304+P340) 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- (P312) 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- (P305+P351+P338) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- (P308+P311) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- (P308+P313) ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。
- (P314) 気分が悪いときは、医師の診察/手当を受けること。
- (P332+P313) 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。
- (P337+P313) 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けること。
- (P362+P364) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- (P370+P378) 火災の場合：消火するために二酸化炭素、泡又は粉末消火器を使用すること。
- 保管 : (P403+P233) 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- (P403+P235) 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- (P405) 施錠して保管すること。
- 廃棄 : (P501) 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

GHS 分類区分に該当しない他の危険有害性

GHS 分類区分に該当 : 区分 1/1B の皮膚感作性物質が 0.1%い所う 1.0%未満存在する。
しない他の危険有害性

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 混合物
- 化学名又は一般名 : ビニルエステル樹脂

名前	CAS 番号	濃度	化学式等	官報公示整理番号	
				(化審法)	(安衛法)
ビニルエステル	非公開	62-66%	非公開	非公開(既存化学物質)	非公開(既存化学物質)
スチレン	100-42-5	32-36%	CH ₂ =CH-C ₆ H ₅	(3)-4	既存化学物質
メタクリル酸	79-41-4	<2.5	CH ₂ =C(CH ₃)COOH	(2)-1025	既存化学物質

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気の場所に移し、毛布などで保温して安静にさせる。状態が悪ければ、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染した衣類や靴を脱ぎ、付着部分を布でよく拭き、その後石鹼を用い、水もしくは温水でよく洗い落とす。炎症が生じた場合は医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに流水で 15 分以上洗眼した後、眼科医の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないで、水でよく口の中を洗い、直ちに医師の手当てを受ける。

- 嘔吐が自然に起こったときは、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 眼・皮膚に発赤、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、意識低下、喘息、肺水腫の症状を起こす。喘息、肺水腫の症状は遅くなって現れる場合が多く、安静に保たないと悪化する。
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 : 火気に注意する。眼、皮膚のばく露を防ぐため、保護眼鏡、耐油性保護手袋などの保護具を着用する。蒸気の吸引を防ぐため呼吸用保護具を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項 : 安静に保ち、医学的な経過観察が不可欠である。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、耐アルコール泡消火剤、水噴霧
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 火災時の特有の危険有害性 : 加熱により容器が爆発するおそれがある。火災によって刺激性、有毒ガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 初期の火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、耐アルコール泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。移動可能な容器は、すみやかに安全な場所に移す。
- 消火活動を行うものの特別な保護具及び予防措置 : 消火作業の際には、有害なガスを吸い込まないように自給式呼吸器等の保護具を着用し、風上から消火作業を行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には、必ず保護具を着用し、風上から作業する、処理作業の際には、保護具(耐油性手袋、保護眼鏡、呼吸用保護具等)を着用し、飛沫が皮膚に付着したり、ガス、蒸気を吸入しないようにすること。風上から作業し、風下の人を退避させること。着火した場合に備えて、消火用機材を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物が、河川、下水、排水路等に流れ込むのを防止する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 少量の場合、乾燥砂、おがくず、ウエス等で拭き取り、密閉できる容器に回収する。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、密閉できる容器に回収する。残った液は、乾燥砂、おがくず、ウエス等で拭き取り、密閉できる容器に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源を速やかに取り除き、着火した場合に備え消火器を準備する。河川、下水、排水路等へ流出した場合、直ちに地方自治体の公害関連部署に連絡する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 取り扱う場合は、局所排気内または全体換気の設備のある場所で取り扱う。
- 注意事項 : 局所排気装置の設置された場所で作業する。
- 安全取扱注意事項 : 本 SDS を読み理解してから取り扱う。火気厳禁。火気、火花を発生するものや、高温着火源の付近で使用しない。容器を無理に転倒させたり、衝撃を加えたり、または引きずる等の乱暴な取り扱いをしない。接触、吸入及び飲み込まない。眼に入れない。
取扱い後はよく手を洗うこと。
- 接触回避 : 「10.安定性及び反応性」を参照。
- 保管
- 安全な保管条件 : 容器は直射日光を避け、通風の良い、冷暗所に保管する。消防法、労働安全衛生法等の法令に従う。
- 安全な容器包装材料 : 消防法及び国連危険物輸送に関する勧告で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
スチレン	20ppm	20ppm(85mg/m ³)(皮)	TWA 20ppm

メタクリル酸	設定されていない	2ppm(7.0mg/m ³)	STEL 40ppm TLV-TWA 20ppm
--------	----------	-----------------------------	-----------------------------

- 設備対策 : 局所排気装置、安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設置する。
- 保護具
- 呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク、送気マスク、自給式呼吸器
 - 手の保護具 : 耐油性保護手袋
 - 眼、顔面の保護具 : 保護眼鏡
 - 皮膚及び身体の保護具 : 保護着(帯電防止型)、保護靴(帯電防止型)

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 淡黄色
- 臭い : 芳香族炭化水素臭
- 融点/凝固点 : -30.6°C(スチレン)
- 沸点又は初留点及び沸点範囲 : 145°C(スチレン)
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界および爆発上限界 : 0.9-6.8vol%(スチレン)
- 引火点 : 33°C(セタ密閉式)
- 自然発火点 : 490°C(スチレン)
- 分解温度 : データなし
- pH : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 溶解度 : 水に不溶、アセトン等の有機溶剤に可溶
- n-オクタノール/水分配係数 : 2.95(スチレン)
- 蒸気圧 : 0.7kPa/20°C(スチレン)
- 密度及びγ又は相対密度 : データなし
- 相対ガス密度 : データなし
- 粒子特性 : 該当しない

10. 安定性及び反応性

- 反応性 : 熱、光、過酸化物等により重合反応を起こす。
- 化学的安定性 : 密閉状態で冷暗所では安定である。
- 危険有害反応可能性 : データなし
- 避けるべき条件 : 加熱、光、静電気の発生を防ぐ。
通気性のある材料の使用は避けること。
構成成分に対して透過性のある材料や可溶性材料の使用は避けること。
- 混触危険物質 : 硬化に過酸化物を使用する際は、過剰量を混触しないこと。
- 危険有害な分解生成物 : 加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11. 有害性情報

- 急性毒性(経口) : 分類できない
(データ不足)
- 急性毒性(経皮) : 分類できない
(データ不足)
- 急性毒性(吸入) : 区分に該当しない(気体)
(非該当)
吸入すると有害(蒸気)
分類できない(粉じん、ミスト)
(データ不足)

スチレン	急性毒性(経口)	ラット LD50 5000mg/kg (ECHA 初期リスク評価書)
	急性毒性(経皮)	ラット LD50 > 2000mg/kg (ECHA)
	急性毒性(吸入)	ラット LC50(4hr) 11.8mg/L (ECHA、初期リスク評価書) マウス LC50(2hr) 21mg/L (ECHA、初期リスク評価書)

メタクリル酸	急性毒性(経口)	ラット LD50 1060~2260mg/kg(初期リスク評価書)
	急性毒性(経皮)	ウサギ LD50 500~2000mg/kg(初期リスク評価書)
	急性毒性(吸入)	ラット LC50(4hr)1981ppm(初期リスク評価書)
皮膚腐食性/刺激性		: 皮膚刺激
スチレン	液体スチレン 皮膚刺激 (SIDS) ウサギ 皮膚刺激性試験 著しい皮膚刺激及び部分的な変性 (ECHA、初期リスク評価書)	
メタクリル酸	ウサギ 皮膚刺激性試験(3分間) 腐食性(初期リスク評価書)	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		: 強い眼刺激
スチレン	液体と蒸気のスチレン 眼刺激 (SIDS) ウサギ 眼刺激性試験 中等度の結膜刺激及び損傷(7日間持続) (ECHA、初期リスク評価書)	
メタクリル酸	ウサギ 眼刺激性試験 角膜混濁他(7日後も回復せず)、化学火傷、角膜上皮の壊死脱落等(初期リスク評価書)	
呼吸器感受性		: 分類できない (データ不足)
皮膚感受性		: 分類できない (データ不足)
メタクリル酸	モルモット 皮膚感受性試験 感受性なし(初期リスク評価書) ヒト 感受性試験 陽性(1例)、陰性(多数)(初期リスク評価書)	
生殖細胞変異原性		: 遺伝性疾患のおそれの疑い
スチレン	マウス吸入ばく露 姉妹染色分体交換試験 陽性(ECHA、初期リスク評価書) マウス吸入ばく露 不定期DNA合成試験 陰性(ECHA) ヒトリンパ球 染色体異常試験 陽性(ECHA、初期リスク評価書) サルモネラ菌 エームス試験 陽性(ECHA、初期リスク評価書)	
メタクリル酸	サルモネラ菌 エームス試験 陰性(初期リスク評価書)	
発がん性		: 発がんのおそれ
スチレン	IARC グループ2A (おそらくヒト発がん性がある) NTPR (合理的にヒトに対して発がん性があることが予想される物質)	
生殖毒性		: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
スチレン	ラット 3世代生殖毒性試験 (飲水投与) 250ppm 生殖パラメータ 有害影響なし (ECHA、初期リスク評価書) ラット 2世代生殖毒性試験(吸入ばく露) 2.13mg/L 嗅上皮の変性 生殖パラメータ 有害影響なし (ECHA) 妊娠6~21日のラット 吸入ばく露試験 300ppm 親毒性なし、児の神経発達の遅延(ECHA、初期リスク評価書) 妊娠6~16日のマウス 吸入ばく露試験 250ppm 胚胎児死亡率とF1世代に骨格変異の増加(ECHA、初期リスク評価書) 雄ラット 60 日間経口投与試験 200mg/kg/日 精巣上体の精子数の減少等 NOAEL は 100mg/kg/日(初期リスク評価書)	
メタクリル酸	ラット/マウス 90 日間吸入暴露試験 最大濃度 1071 mg/m3 : 生殖器影響なし(環境省リスク評価)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		: 臓器への障害(中枢神経系) 呼吸器への刺激のおそれ
スチレン	マウス/ラット/モルモット 吸入ばく露試験 振戦、意識消失等の中枢神経への影響、眼、鼻、肺の刺激(初期リスク評価書) ボランティア 1.5 時間吸入ばく露試験 50mL/m3 以上 視覚刺激、聴覚刺激に対する反応の遅延(初期リスク評価書)	
メタクリル酸	ボランティア 吸入暴露試験 0.4~3mg/m3 : 眼や上気道の刺激(初期リスク評価書)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器系、肝臓、神

	経系、血液) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(副腎、腎臓)
スチレン	長期間吸入ばく露 慢性気管支炎、閉塞性肺障害や胃の消化機能低下(初期リスク評価書) 樹脂工場従業員(推定100~300ppmばく露) 血小板数の減少等(初期リスク評価書) 10~300ppmばく露従業員 精神神経学的機能検査で機能低下(初期リスク評価書) マウス 13週間吸入ばく露試験 0.43mg/L以上 肺の異常、0.64mg/L以上 肝臓の炎症 NOAEC=0.21mg/L (ECHA) マウス 28 日間吸入ばく露試験 0.69mg/L 気管支、聴覚器官の変性 NOAEC=0.18mg/L (ECHA)
メタクリル酸	労働者 作業環境濃度20~80mg/m ³ : 血小板の減少、指の振戦等、神経系の症状(初期リスク評価書) マウス 90 日間吸入暴露試験 100ppm以上 : 鼻腔嗅上皮変性、300ppm : 鼻炎、白血球数減少、腎臓尿細管上皮の巨大細胞化 NOAEL=20ppm(初期リスク評価書) ラット 6ヶ月間経口投与試験 5mg/kg/day : 反射能低下、肝臓や腎臓、副腎の委縮、赤血球減少 NOAEL=0.05mg/kg/day(初期リスク評価書)
誤えん有害性	: 分類できない (データ不足)
スチレン	誤嚥 化学性肺炎のおそれ(ICSC)

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	: 水生生物に毒性
水生環境有害性 長期(慢性)	: 長期継続的影響によって水生生物に有害

スチレン	魚類(ファットヘッドミノー)LC50(96hr) 4.02mg/L(ECHA、環境リスク評価) 甲殻類(オオミジンコ)EC50(48hr) 4.7mg/L(ECHA、環境リスク評価) 甲殻類(オオミジンコ)NOEC(21day) 1.01mg/L (ECHA、環境リスク評価) 藻類(ムレミカヅキモ)ErC50(72hr) 4.9mg/L(ECHA) 藻類(ムレミカヅキモ)ErC10(96hr) 0.28mg/L (ECHA)
メタクリル酸	魚類(ニジマス) LC50(96hr) 85mg/L(初期リスク評価書) 甲殻類 (オオミジンコ) EC50(48hr) >130mg/L、NOEC(21day) 53mg/L(初期リスク評価書) 藻類(ムレミカヅキモ) ErC50(72hr) 14mg/L、NOEC(72hr)8.2mg/L(初期リスク評価書)

残留性・分解性

スチレン	生分解性試験(2週間) 良分解性(既存点検、ECHA) 生分解性試験(10日間、OECD TG301F)分解率 68%(ECHA)
メタクリル酸	生分解性試験(2週間) 良分解性(既存点検)

生体蓄積性

スチレン	BCF=74(計算値)(ECHA)、41(計算値)(環境リスク評価) log Pow=2.96(測定値)(ECHA)
メタクリル酸	BCF=0.2(計算値)(初期リスク評価書) logPow=0.93(測定値)、0.99(計算値)(初期リスク評価書)

土壤中の移動性

スチレン	Koc=352(計算値)(ECHA、環境リスク評価)
メタクリル酸	Koc=15(HSDB)

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性	: 分類できない (データなし)
-----------	---------------------

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者及び処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。
- 汚染容器及び包装 : 空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去したのちに、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者及び処理業者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

国際規則

- 国連番号 : クラス 3 (引火性液体)
- 品名 : 樹脂液
- 国連分類 : 1866
- 容器等級 : III
- 海洋汚染物質 : 非該当

国内規則

- 陸上輸送 : 消防法の規定に従うこと。
- 海上輸送 : 船舶安全法の規定に従うこと。
- 航空輸送 : 航空法の規定に従うこと。
- 輸送の特定の安全対策及び条件 : 容器の転倒、落下、摩擦など、容器の損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。容器ごとに漏れの有無、栓の閉まり具合を確認する。
- 緊急時応急措置指針番号 : 128

15. 適用法令

- 化審法 : 優先評価化学物質(法第2条第5項)
スチレン
メタクリル酸
- 労働安全衛生法 : 特定化学物質第2類物質、特別有機溶剤等(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2号、第3の2号、第3の3号)
スチレン
作業環境評価基準(法第65条の2第1項)
スチレン
名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)
スチレン
メタクリル酸
危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
その他の引火点30°C以上65°C未満のもの
健康障害防止指針公表物質(法第28条第3項・厚労省指針公示)
スチレン
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
スチレン (政令番号 : 323)
メタクリル酸 (政令番号 : 556)
特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3)
スチレン
特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者(法第66条第2項、施行令第22条第1項)
スチレン
- 毒物及び劇物取締法 : 通知対象物質ではありません
- 水質汚濁防止法 : 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)

	スチレン
消防法	: 第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類) 第二石油類非水溶性液体
悪臭防止法	: 特定悪臭物質(施行令第1条)
	スチレン
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申)
	スチレン
	メタクリル酸
	揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
	揮発性有機化合物
	揮発性有機化合物 法第2条第4項 (平成14年度VOC排出に関する調査報告)
	揮発性有機化合物
海洋汚染防止法	: 危険物(施行令別表第1の4)
	スチレン
	有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
	スチレン
	メタクリル酸
船舶安全法	: 引火性液体類(危規則第2、3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	: その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法	: 車両の通行の禁止(施行令第19条の12、(独)日本高速道路保有・債務返済機構 公示第12号・別表第1)
特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法)	: 廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)イに掲げる有機溶剤を含む物 イ又はロに掲げる有機溶剤以外の有機溶剤を含む物
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) スチレン (管理番号 : 240) (34%) メタクリル酸 (管理番号 : 415) (1.8%)
労働基準法	: 疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1) スチレン

16. その他の情報

記載内容の問い合わせ先	: 富士レジン工業(株)技術部 TEL 06-6499-0303
参考資料	: 製品安全データシートの作成指針(日本化学工業協会) 化学物質労働安全衛生法規制便覧(第一法規出版) 産業中毒便覧(医歯薬出版) 溶剤ポケットブック(オーム社) 14705 の化学商品(化学工業日報社) 安全衛生情報センター モデル SDS 情報 JIS Z 7253 : 2019

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意をしてください。
ここに記載された情報は、原材料メーカー・弊社のデータ及び種々の技術出版物にあるデータに従ったものです。
安全な取り扱いを決定する際に、この情報を採用するか否かは使用者がその責任においてお決めください。
なお、ここに記載された情報は、作成時点では弊社の調査による最新の情報に基づき作成されたものですが、法令規制等の改正、新たな毒性試験結果の発表等により、改訂がありうる事をご承知おき下さい
本製品に当社が認めた材料以外のものを混合したり、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用するときは、使用者によって安全性を確認してください。
本データシートに記載のデータは保証値ではありません。